

令和 2 年 7 月 2 日

令和 2 年第 2 回神奈川県議会定例会

経済・産業振興特別委員会資料

目 次

ページ

- 1 交通基盤の整備の取組について
 - (1) 道路ネットワークの整備・・・・・・・・・・ 1
 - (2) 鉄道ネットワークの整備・・・・・・・・・・ 6

- 2 地域ブランドの推進について
 - (1) 伝統的工芸品産業の振興について・・・・・・ 11
 - (2) 農林水産物のブランド化について・・・・・・ 12
 - (3) 「かながわの名産100選」について・・・・・・ 14

1 交通基盤の整備の取組について

(1) 道路ネットワークの整備

ア 経緯

道路は、県民生活の利便性向上や地域経済の活性化、さらには災害時における県民の安全・安心の確保にも寄与する重要な社会基盤である。

本県では、道路部門の実実施計画である「かながわのみちづくり計画」に基づき、幹線道路ネットワークの形成のため、国や高速道路会社が実施する自動車専用道路の整備を促進するとともに、それらと一体となって機能するインターチェンジ接続道路の整備などに取り組んできた。

こうした中、圏央道の一部を構成するさがみ縦貫道路の全線開通をはじめ、これまでに、新東名高速道路の海老名南ジャンクションから伊勢原大山インターチェンジ間や、国道129号戸田交差点の立体化などが完成し、さがみ縦貫道路の沿線市町では、企業の立地が進むなどの効果が現れている。

しかし、新東名高速道路の未開通区間をはじめとする、つながるべき道路をつなげていくためには、引き続き、道路整備を進める必要がある。

特に、国家戦略特区など3つの特区指定を受けて、国際競争力の強化に向けた人・モノの円滑な移動を確保することや、近年多発する災害への対応力の強化を図ることは重要であり、こうした本県の道路を取り巻く状況の変化に対応するためにも、厳しい財政状況の中、効率的・効果的な幹線道路ネットワークの整備に取り組んでいる。

イ 自動車専用道路網の整備〔主な路線の取組状況〕

県土構造の骨格となる自動車専用道路網の整備を促進する。

(ア) 新東名高速道路

平成28（2016）年までに静岡県内の御殿場ジャンクション以西が順次開通し、本年3月までに海老名南ジャンクションから伊勢原大山インターチェンジの区間が順次開通した。現在、中日本高速道路（株）が、残る御殿場ジャンクションまでの区間の整備に取り組んでいる。用地取得はほぼ完了しており、橋梁やトンネルの工事などを進めている。

(イ) 横浜湘南道路・高速横浜環状南線（圏央道）

新湘南バイパスの藤沢インターチェンジから横浜横須賀道路の釜利谷ジャンクションまでを繋ぐ道路で、国と東日本高速道路（株）が整備に取り組んでいる。用地取得は両路線ともほぼ完了しており、橋梁やトンネルの工事などを進めている。

(ウ) 厚木秦野道路（国道246号バイパス）

圏央道の圏央厚木インターチェンジから新東名高速道路の（仮称）秦野インターチェンジを繋ぐ道路で、計画延長約29kmのうち延長約14kmの区間において、国が、用地取得や橋梁の工事などを進めている。

ウ インターチェンジ接続道路の整備〔主な路線の取組状況〕

新たに整備される自動車専用道路への円滑なアクセスを確保するため、インターチェンジ接続道路の整備を推進する。

(ア) 県道603号（上粕屋厚木）

新東名高速道路の伊勢原大山インターチェンジに接続するバイパス道路で、用地取得は完了し、令和元年7月に一部区間が開通、更に本年3月にインターチェンジ開通に合わせ、料金所に接続する区間が開通した。現在、残る区間の橋梁工事などを進めている。

- (イ) 都市計画道路 横浜藤沢線〔関谷工区〕
横浜湘南道路および高速横浜環状南線の（仮称）
栄インターチェンジ・ジャンクションへ接続する
道路で、6車線化の整備に取り組んでいる。用地
取得率は約9割であり、残る用地の取得や歩道設置
工事などを進めている。

エ 交流幹線道路網の整備〔主な路線の取組状況〕

自動車専用道路網を補完して、地域の交流・連携を
支える幹線道路網の整備を推進する。

- (ア) 県道26号（横須賀三崎）〔三浦縦貫道路Ⅱ期〕
横浜横須賀道路の衣笠インターチェンジに、有料
道路であるⅠ期区間と一体となって接続するバイ
パス道路で、供用開始に向けて舗装工事などを進め
ている。
- (イ) 都市計画道路 湘南新道
湘南地域の東西方向の連絡を強化するとともに、
圏央道の寒川南インターチェンジへアクセスし、広
域的なネットワークを形成する道路で、用地取得率
は約7割であり、残る用地の取得などを進めている。
- (ウ) 県道611号（大山板戸）〔大山バイパス〕
新たな観光の核づくりを進めている「大山」への
アクセスを強化するバイパス道路で、用地取得は
完了し、橋梁工事などを進めている。
- (エ) 県道731号（矢倉沢仙石原）〔南足柄市と箱根町
を連絡する道路〕
既存の林道を活用して、新たなネットワークを
構築する道路で、用地取得は完了し、法面対策工事
などを進めている。
- (オ) 県道42号（藤沢座間厚木）〔Ⅱ期工区〕
県央地域の東西方向の連絡を強化し、厚木市街地
の渋滞を緩和する外郭環状道路で、用地取得と橋梁
工事などを進めている。

オ 今後の取組

県内では、自動車専用道路網の整備などにより、移動性の向上や渋滞の改善が図られ、観光振興や企業活動の活性化などの大きなストック効果が現れ始めている。

活力と魅力ある神奈川を実現するためには、幹線道路ネットワークの整備が大きな役割を担うことから、引き続き、「かながわのみちづくり計画」に基づき、整備を推進していく。

(2) 鉄道ネットワークの整備

ア 経緯

本県における交通施策の基本的な方向を示す「かながわ交通計画」では、道路ネットワークとともに、鉄道ネットワークを充実させることで、県内外の地域間の連携強化や、利便性、快適性の向上などを図ることとしている。

このうち、全国との交流連携の強化を図るものとして、リニア中央新幹線の整備促進や、寒川町倉見地区への東海道新幹線新駅の誘致に取り組んでおり、本県の新たな交流連携の窓口として、リニア中央新幹線県内駅（橋本駅周辺）を核とする「北のゲート」と、東海道新幹線新駅を核とする「南のゲート」の形成に向けた取組が進められている。

このほか、通勤・通学時の混雑緩和、速達性の向上、新幹線へのアクセス強化などのため、鉄道網の整備を促進しており、これまでに横浜市営地下鉄グリーンラインの開業や、東急東横線・東急田園都市線の一部区間の複々線化が実現され、現在は、神奈川東部方面線の整備が進められている。

なお、東京圏における都市鉄道ネットワークの整備は、これまで国の審議会の答申に沿う形で進められてきており、平成28（2016）年4月に、「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」について、新たな答申（交通政策審議会答申第198号）が示され、本県から交通政策審議会に対し提案した路線が、全て盛り込まれたところである。

イ 主な取組

(ア) 新幹線の整備（南北のゲートの形成）

a リニア中央新幹線の建設促進（事業中）

令和9（2027）年の品川・名古屋間開業に向けて、事業が進められており、本県においても、非常口設置工事や、県立相原高校跡地に設置される県内駅

の工事が令和元年11月に着手されるなど、着実に事業進捗が図られている。今後も、県、県内全市町村、経済団体で構成する「リニア中央新幹線建設促進神奈川県期成同盟会」を通じて、ＪＲ東海や国等に対し、早期完成に向けた要望活動を行うとともに、地元に対して十分な情報提供や丁寧な対応を図るよう、ＪＲ東海に求めていく。

また、リニア中央新幹線県内駅が設置される橋本駅周辺地区では、まちづくりの主体である地元相模原市に協力し、魅力あるまちづくりの実現に向け、技術的助言を行っている。

さらに、リニア中央新幹線の建設促進を図るため、ＪＲ東海から受託している用地取得業務を、相模原市と連携しながら進めている。

b 東海道新幹線新駅の誘致

県、関係市町、経済団体等で構成する「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会」を通じて、ＪＲ東海や国等に対し、新駅誘致に向けた要望活動を行っている。

また、新駅の受け皿となるツインシティをはじめ、地域の魅力あるまちづくりの取組を進めている。

(イ) その他の鉄道網の整備〔主な路線の取組状況〕

a ＪＲ相模線の複線化

現在単線である茅ヶ崎駅から橋本駅までの間を複線化する計画で、「北のゲート」と「南のゲート」の連携強化が期待される。

県、沿線市町、経済団体で構成する「相模線複線化等促進期成同盟会」を通じて、ＪＲ東日本や国等に対し、複線化等の早期実現に向けた要望活動を行っている。

また、平成28（2016）年3月に設立した「相模線沿線活性化協議会」を通じて、県、沿線市町、経済団体とＪＲ東日本が連携し、相模線と沿線地域の活性化を目的とした、相模線の利用促進に取り組んでいる。

b 相鉄いずみ野線の延伸

相鉄いずみ野線の湘南台駅から東海道新幹線新駅を誘致している寒川町倉見地区まで延伸を行う計画で、県央部と、横浜市中心部や都心部とのアクセス利便性の向上が期待される。

先行区間として、湘南台駅から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近までの延伸を目指すこととしている。

県、関係自治体、相模鉄道、慶應義塾大学等が連携し、実現に向けた検討に取り組んでいる。

c 神奈川東部方面線整備事業（事業中）

相鉄線の西谷駅と、羽沢横浜国大駅を經由しJR東海道貨物線横浜羽沢駅付近を結ぶ相鉄・JR直通線と、羽沢横浜国大駅と東急線の日吉駅を結ぶ相鉄・東急直通線で構成され、相鉄線とJR線・東急線が相互に乗り入れする計画である。

このうち、相鉄・JR直通線は、令和元年11月30日に開業した。

県は、県央部や横浜市西部から、東京都心部への速達性の向上などが期待されることから「都市鉄道等利便増進法」に基づき、整備主体である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に対し、国や横浜市と協調し、建設費の補助を行っている。

d 村岡新駅（仮称）の設置

東海道本線の大船駅・藤沢駅間の藤沢市村岡地区に、新駅を設置する計画で、併せて、周辺の藤沢市村岡地区と鎌倉市深沢地区では、藤沢市と鎌倉市により一体的なまちづくりに向けた検討が進められている。

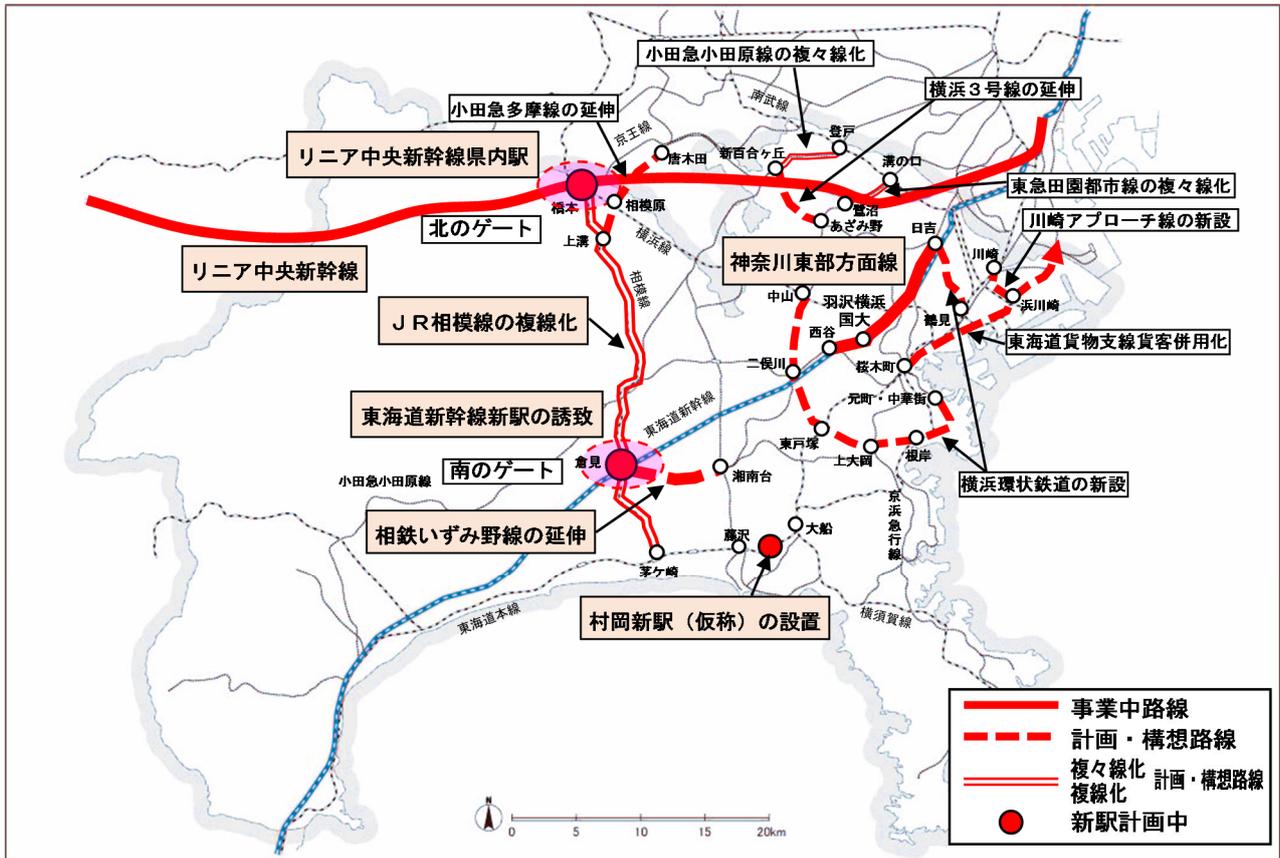
県は、藤沢市、鎌倉市とともに、「村岡新駅（仮称）設置協議会」を設置して、新駅の実現に向けた取組を進めている。

ウ 今後の取組

南北2つのゲートについては、駅設置が前提となることから、引き続き、期成同盟会を通じてJR東海や国に対し、早期実現を働きかけるとともに、周辺のまちづくりに向けて、関係市町と連携した取組を進めていく。

その他の鉄道網の整備については、事業性の確保などの課題の整理・検討に、関係自治体や鉄道事業者などと連携して取り組むとともに、国に対しては、公的支援の拡大等について働きかけを行っていく。

参 考



「北のゲート」「南のゲート」及び交通政策審議会答申第198号の神奈川県
の路線等を示したもの

2 地域ブランドの推進について

神奈川には、伝統的工芸品、農林水産物、観光資源など、魅力的な地域資源があることから、地域ブランドとして、その発掘・活用を促進し、地域経済の活性化を図っている。

(1) 伝統的工芸品産業の振興について

工芸技術所では、伝統的工芸品などの木製品に関する機器利用、依頼加工などのほか、人材育成や販路開拓などの支援事業を行っている。

ア 令和元年度の主な取組

(ア) 産地技術者育成

小田原・箱根地域の木製品製造業の若手技術者を対象とした技術向上と情報交流の場として、「工芸ヤングフォーラム」を開催し、産地後継者の育成支援に取り組んだ。

開催 11回、延べ参加者 146人

(イ) 伝統的工芸品展への出展支援

伝統的工芸品の普及啓発や潜在的需要の喚起、消費者ニーズの把握など、伝統的工芸品産業のより一層の発展に資することを目的として、産地組合の展示会出展を支援した。

<全国伝統的工芸品展WAZA2020>

開催期間 令和2年2月20日(木)～25日(火)

会場 東武百貨店池袋店8階催事場

出展品目 箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫

来場者数 121,215人

<関東ブロック伝統的工芸品展2020>

開催期間 令和2年1月24日(金)～26(日)

会場 羽田空港国際線旅客ターミナルビル5階EDO HALL

出展品目 箱根寄木細工、小田原漆器、鎌倉彫

来場者数 12,600人

(2) 農林水産物のブランド化について

ア かながわブランドについて

県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」（以下「協議会」）では、組織的な生産体制によって、一定の品質を確保するなどの登録要件を満たしている県内産農林水産物及びその加工品を「かながわブランド」として登録しており、令和2年3月31日現在、67品目115登録品となっている。

また、協議会では、かながわブランド登録品をはじめとした県内産農林水産物等を積極的に取り扱う小売店や飲食店などを「かながわブランドサポート店」として登録するとともに、年間を通じて「かながわブランドサポート店」と連携したPRや販売促進イベントを「かながわブランドキャラバン」として開催している。

かながわブランド登録品

区分	品目数	登録品数	主な登録品
野菜	22	37	三浦のだいこん、さがみのかぶ、しょうなん小松菜、横浜キャベツ、三浦かぼちゃ、小田原玉ねぎ
米・豆類	2	7	湘南そだち米、あつぎせせらぎ米、津久井在来大豆
果実	12	21	おだわら・あしがらのみかん、湘南ゴールド、海老名いちご、三浦すいか
花き	3	4	秦野のカーネーション
畜産品	5	17	葉山牛、横濱ビーフ、足柄牛、やまゆりポーク、あつぎ豚、高座豚手造りハム
水産品	6	6	湘南しらす、佐島の地だこ、相模の鮎
農産加工品	12	16	足柄茶、曾我の梅干、三浦の割干し大根、桜漬
水産加工品	5	7	三浦のわかめ、かながわの海苔、三浦のひじき
合計	67	115	

かながわブランドサポート店の登録数（令和2年3月31日現在）

区分	量販店	小売店	飲食店	その他	合計
登録数	263	98	194	3	558

※その他は仲卸店



かながわブランドマーク



もともちユニオン元町店



朝ドレファミリー成田店

かながわブランドキャラバンの様子

(3) 「かながわの名産100選」について

ア 取組の概要

県の伝統と風土に培われた、物産（工芸品、加工食品、農林水産品等）について、県民の皆様や各団体等からの推薦を受け、昭和60（1985）年度に初めて選定し、平成18（2006）年度の再選定を経て、平成30（2018）年度に12年ぶりに見直しを行い、新たな「かながわの名産100選」を選定した。

イ 新たな「かながわの名産100選」

(ア) 工芸品 11品目

横須賀のスカジャン、相州だるま 等

(イ) 加工食品 56品目

ありあけ横濱ハーバー、ダブルマロン、鳩サブレ、小田原どん 等

(ウ) 農林水産品 33品目

はるみ（米）、藤稔（ぶどう）、やまゆりポーク 等

ウ 令和元年度取組

(ア) 広報ツール作成

「かながわの名産100選」を通して、県内への誘客促進を図るため、ロゴ・マークやパンフレット等の広報ツールを作成した。



かながわの名産100選ロゴ・マーク

(イ) アンテナショップ「かながわ屋」における展示販売

県産品の知名度向上を図るため、アンテナショップ「かながわ屋」において「かながわの名産100選」をはじめとした県産品を展示販売した。

(ウ) かながわ名産展等の開催

県内外の百貨店等で開催する物産展を通じて「かながわの名産100選」を中心とした県産品の魅力を発信した。

(エ) ラグビーワールドカップ2019™におけるプロモーション

ラグビーワールドカップ2019™開催期間中に、多くの観光客が訪れる東京都内ターミナル駅（10月5日～8日）やラグビーワールドカップ2019™ファンゾーン（9月20日～11月2日）等において、「かながわの名産100選」を活用し、本県の魅力をPRするイベントを実施した。



東京都内ターミナル駅における「かながわの名産100選」を活用したプロモーション

(オ) ホームページによる情報発信

国内観光客向けウェブサイト「観光かながわNOW」を改修し、「かながわの名産100選」をはじめとした県産品を購入できる店舗等の情報を掲載することで、観光客の消費行動を促す観光コンテンツを発信した。